## Ⅰ　研究の概要

### １　研究主題

**研究主題　『確かな学力』の育成**
**～基礎・基本の定着を図り，**
**学び合う学習指導の工夫を通して～**

### ２　主題設定の理由

**(1) 今日的教育課題から**

①「知識基盤社会」の時代において，確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。

②各種の調査結果から見える課題

ア　思考力, 判断力, 表現力等を問う読解力や記述式問題，知識・技能を活用する問題に課題

イ　家庭での学習時間などの学習意欲，学習習慣・生活習慣に課題

ウ　自分への自信の欠如や自らの将来への不安，体力の低下といった課題

**(2) 本校の教育目標から**

本校の教育目標は「郷土を愛し，夢（目標）に向かって，高め合う生徒の育成」である。これは，高い理想の実現を目指し，知性を磨きあい，豊かな心をはぐくみ，健やかな体を鍛えあう中で，生徒一人一人が自分や他の人の生命を大切にし，将来的に社会を構成する一員として自立していくために必要な能力や態度を育てるとともに，知・徳・体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむ視点をもったものである。本校研究主題の具現化は，この学校教育目標への到達を可能にするものである。

**(3) 本校のこれまでの研究の流れから**

本校では，平成２６・２７年度に甲佐町教育委員会より「学力充実」の研究指定を受け，『確かな学力』の育成という研究主題のもと，研究を進めてきた。

平成２８年度は研究主題を受け継ぎ，研究のキーワードを『学び合い』と『振り返り』として，研究を進めた。本校は毎年職員の入れ替わりが多く，若い職員も多いため，１学期は「めあて」と「まとめ」を意識した授業スタイルの確立に取り組んだ。すべての職員が授業のスタイルを確立することができるようになってきた。２学期以降は次のステップとして，『学び合い』を確立した授業スタイルに重点を置き，学力の向上を目指した。その中で，学び合いの質の向上については課題も残った。また，hyper-ＱＵの具体的な活用として, 生徒を見つめる会への活用を図り, 客観的な分析をもとに生徒理解を行い, 深めることができた。

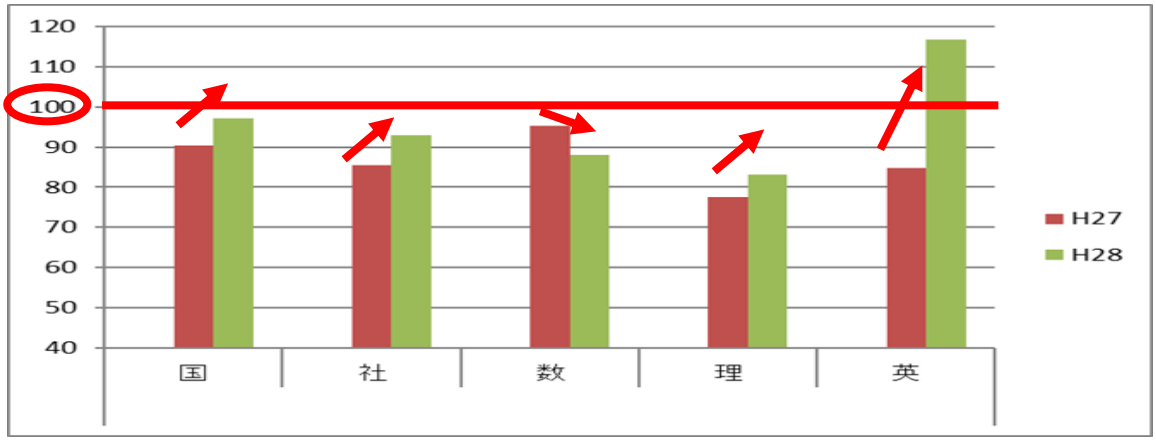
⑷ 本校生徒の実態から

① 基本的な学習態度において，授業に対する生徒の姿勢は年々改善傾向にあり，落ち着いた学習の雰囲気になってきている。しかし，学習課題の提出においては課題がある。また，家庭学習においては，習慣が十分に身についていない現状がある。

② 各種の学力調査において，全国標準学力検査（ＮＲＴ）の結果も低く，全国平均を下回り，学年が上がるにしたがって偏差値が低くなる状況にある。また，県学力調査の結果において県平均に届かない教科も多い。

平成２７，２８年度の県学力調査では，現３年生の各教科の定着率は次のグラフのような結果であった。

〈 Ｈ２７，２８　県学力調査結果　県平均を１００としたときの現３年生の値 〉




県平均と比較すると，本校の現３年生は国語，社会，理科，英語で伸びているものの，４教科で県平均に届いていないことが分かる。このことから，昨年に続き「『確かな学力』の育成」という研究主題を継続して設定し，次のような研究の仮説と視点を立て，研究実践を行うこととした。

## ３　研究主題について

⑴ 「確かな学力」とは，知識や技能の習得はもちろんのこと，これに加えて，学ぶ意欲や自分で課題を見つけ，自ら学び，主体的に判断し，行動し，よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたものである。

⑵ 「基礎・基本の定着」とは，読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識や技能を，確実に生徒に習得させ，学習の基盤を構築していくことである。

⑶ 「学び合う学習指導の工夫」とは生徒同士が学習課題を媒介にしてつながり，「聴き合う」，「伝え合う」，「教え合う」活動を生み出すための教師側の学習活動の工夫である。具体的には，問題提示や学習課題，発問の工夫だけでなく，ＩＣＴの活用，振り返る活動の設定も学び合う学習指導の工夫と考える。

## 4　研究の仮説について

仮説１　基礎・基本の定着を図り，学び合いのある授業，授業終末の振り返り，ＩＣＴの活用などの工夫を行えば，すべての生徒が「分かった」と実感を伴って理解できる授業ができ，生徒にとって学ぶ喜びや学びの有用性を感じることにつながり，学習意欲の向上ならびに学力の向上が図れるであろう。

仮説２　hyper-ＱＵを活用し，よりよい人間関係を形成する取組を意図的に行えば，ルールとリレーションが定着し，生徒同士に温かい人間関係や信頼関係が形成され，お互いに学び合い，高め合う学習集団が形成されるであろう。

## 5　研究の視点

生徒の「確かな学力」を育成するために，下記の視点から研究を推進することとした。

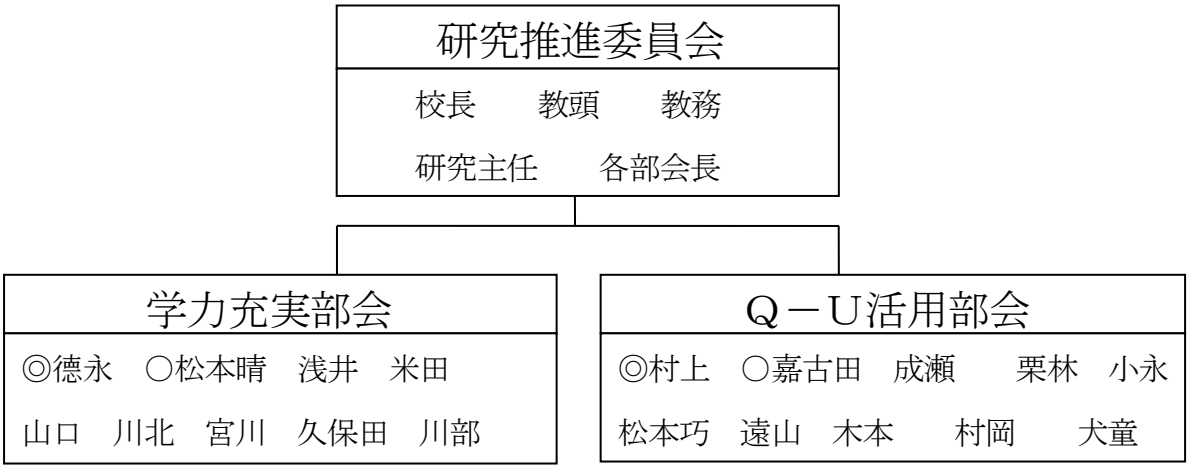
(1)　授業力の向上・・・「甲佐中」１時間の授業の流れの共通実践，ＩＣＴの活用

(2)　学習集団の育成・・hyper-ＱＵを活用した人間関係づくり，仲間づくりの共通実践

１つ目は，最重点課題の教師の授業力の向上である。全職員が共通理解のもと，「甲佐中　１時間の授業の流れ」に沿った共通実践を行い，授業展開で「学び合い」，「振り返り」の活動を取り入れる。また，ＩＣＴを活用した授業を行う。

２つ目は，学習集団において支持的風土や人間関係づくりを促し，学習効果をより向上させる生徒と教師，そして生徒間の人間関係の構築である。特に hyper-ＱＵを活用し，生徒の実態を客観的につかみ，教育相談の充実を図り，生徒が学校生活を楽しんで送ることで，よりよい集団づくりを目指す。また，仲間づくりに向けた構成的グループエンカウンター（ＳＧＥ）等の共通実践を行う。

## 6　研究組織




研究組織は主な校務分掌，担当教科を考慮して編成している。(◎は部会長，○は副部会長)

７　研究の構想図

**甲佐中学校　教育目標**

**郷土を愛し，夢（目標）に向かって，高め合う生徒の育成**

**ねばり強く，心身共にたくましい生徒**

**知性を磨き，自ら学び考え行動する生徒**

**高い理想と勇気を持ち，自他を大切にする生徒**

**めざす生徒像**

**確かな学力**

研究主題
「確かな学力」の育成

学力充実部会

*授業力向上・学力向上*

- **「甲佐中１時間の授業の流れ」に沿った授業の共通実践**
- **ＩＣＴの活用**
- **授業公開週間の充実**
- **家庭学習の充実**
- **甲佐カップ基礎テスト**

（仮説　１）

Ｑ－Ｕ活用部会

*学習集団育成*

- **教師と生徒及び生徒相互のより好ましい人間関係の構築**
- **hyper-ＱＵを活用した生徒を見つめる会の実施**
- **仲間づくりの共通実践**

（仮説　２）

**甲佐中生徒の実態**

- **全国標準学力検査（ＮＲＴ）**
- **県学力調査**
- **全国学力・学習状況調査**
- **hyper-ＱＵ**
- **学習・生活に関するアンケート**

図１　研究の構想図